

いきいき通信

vol.27

発行：左京西部
いきいき市民活動センター
発行日：2019年4月1日

子ども食堂スタート

この4月から左京西部いきいき市民活動センター・高齢者ふれあいサロン（以下「サロン」と表記）にて、子ども食堂がオープンします。これに先立ち、昨年9月から試験的にサロンで子ども食堂を運営している「京都Tera.Coya」代表 こぼやし みつな 小林光長さんにお話をお伺いしました。（土井礼子）

—— 京都Tera.Coyaの成り立ちについて教えてください。

「もともとは非行問題について関心があり、『非行に走らない環境作り』を模索していました。よく耳にする『子ども食堂』、しかし月1回食堂を開催することで何が変わるのだろうかという疑問を持ち、ならば行って見てみよう」と2017年の6月、ボランティアとして南区にある複数の食堂に参加しました。その時に、月1回であっても開催することは大変であるという事、しかし子ども達は開催を期待している事を知り、後にボランティアを継続する中で、もっと開催頻度、或いは開催場所を多くしたらいいいのではないかと思いはじめました。学生のメンバーが多かったので、食堂を行わない週に『子ども達の学習会』を軽食提供と共に始め、その経験から自分達自身の子ども食堂を作ろうという事に発展しました。同時期にバザールカフェ（上京区・日替わりで多国籍料理を提供）の『若草プロジェクト（社会で孤立したり非行に走ったりする少女を支える活動）』でフィリピン人のサポート団体の方と出会い、京都に住むフィリピン人の子ども達の実情を知り、『学習支援』を計画、昨年5月頃から毎週土曜日午後西部いきセンの会議室で学習支援を始め、9月からはサロンにて試験的に食堂を開くことになりました。活動は徐々に認知され、複数の大学から学生達がスタッフとして関わっています。現在、フィリピン人11名、日本人2名の子ども達が子ども食堂に参加し、11名のスタッフで運営しています。」



—— 他の子ども食堂との違いはどういった点でしょうか？

「下は高校1年生から上は36歳、大半が大学生、とスタッフの年齢が他の子ども食堂に比べ非常に低い点です。子ども達にとってはお兄さんお姉さんの存在で、間違っただけでは、歳の近い人間として方向修正してもらえる存在が沢山いるということでしょうか。子ども達にとって学校でも家庭でもない場所であり、又若い人達が楽しんで活躍できる場でありたいと思います。」

子どもたちとお菓子作り



ときにはみんなでカードゲーム



Tera.Coya Free School

—— 現在の活動の様子を教えてください。

「月2回が子ども食堂。午後3時から6時の間に学習、その間に調理、6時頃から7時まで全員で夕食を食べ、後片付けしてサロンを出るのは9時頃になります。調理は基本、スタッフが行いますが、時々スタッフと共にフィリピン人のサポート団体の方がお国の料理を作ります。また昨年は地域の方が中心になって子ども達と一緒に好み焼きを作りました。残りの月2回は『フリースクール』で子ども達が自分達でやりたいことを計画してやります。この日は軽食を提供します。」

—— 今後の抱負等、お聞かせ下さい。

「4月からスケジュールは今迄通り、月2回が食堂、月2回がフリースクールを予定しています。地域に開かれた子ども食堂になるので、いま来ている子どもたちが日本で生きて行く上で馴染める場所、馴染んでいく方法をここで身につけられたらと思います。いきなりはできないので3月まではその準備期間と思っています。この地域も在留外国人の子どもが多いとお聞きしたので、その子達にも来てもらいたいと思っています。新しいコミュニティとなっていけたらいいですね。」



回想法のススメ

これまで左京西部いきいき市民活動センターでは様々な事業を展開してきました。その中でも前回の指定管理者更新からの4年間に一番力を入れてきた「回想法」に関してご紹介いたします。
(梶川貴弘)

【回想法とは】

高齢者の思い出の話を聞き手が共感的に受け入れる姿勢で傾聴することにより、語り手の人生に対する再評価や自己の強化を促し、心の安定や記憶力の改善をおこなう心理的援助技法です。わたしたちはこの回想法を参考にして思い出のお話を語り合うことにより、地域社会（コミュニティ）の中で失われつつあるコミュニケーション機会を再生し、新たなネットワークを生み出していきたいと考えています。



【これまでの左京西部での活動】

私たちが行なって来た回想法事業は次のようなプロセスを経て実施されています。

1) お話をしてくださる高齢者との交渉と決定。2) お話を伺う上でのテーマの設定。3) 聴き手の決定。4) 聴き手に対する傾聴の研修会の実施。5) お話を聞く。6) 聞いた内容を短い文章にまとめる。7) 成果物としてまとめて、肖像写真と文章を展示。これまでに思い出の品物や写真・若者の悩み相談・食べ物・場所・戦争・盆踊りというテーマで聞き取り、展示会をおこないました。



【これからに向けて】

今後はシニア世代の“居場所”づくりに重点を置きます。まず今年度は担い手の養成のため、コミュニケーション研修や回想法についてのレクチャー、そして実際に回想法の体験をするワークショップを6月から7月まで、6回で開催します。またシニア世代が集える場所を創出するきっかけとしてシニア世代向けの複数の講座を6月から開催します。ゆくゆくこの“居場所”が、シニア世代が能動的に社会に関わる“活動拠点”に発展していくことを夢見ています。

コラム

『市民活動活性のための種』

「若い人に地域活動や、市政にどう参加してもらおうか。」様々な会議でよく耳にする話題です。私たちもセンター周辺に多数暮らす大学生に私たちの活動に参加してもらいたいと、インターンシップを受け入れたり、大学と連携して事業を行ったりしましたが、そんな学生たちの多くは、どこか腰の引けた「やらされ」感を漂わせていました。

しかし、昨年から当センターで学習支援やこども食堂を行っているグループでは、まさに多くの学生が、能動的に嬉々として活動しており、非常に驚きました。

「市民活動の活性化」のために、どのような事業を行うか、この4年間考え、そして実行してきたつもりです。しかし、そもそも市民活動が活性化するのはどういうことなのか、どうすれば市民活動が活性化していくのか、私たちはまだ模索の中にいます。それを解き明かす一つのヒントが、この実例の中にあるのではないのでしょうか。若者を動機付けているのはなんなのか？例えば、彼らを能動的な行動に向けている「何か」を見つめ、それを育むこと、それがこれからの事業を立案し、運営していく上で大切なポイントになると思うのです。

(杉山準)

今年もやります♪

いきいき

ワークショップフェスティバル

6月16日開催



京都市左京西部
いきいき市民活動センター

- 会議室1～5・和室の施設貸出し（1時間：100円）
- コピー機の利用受付
（カラー：20円／モノクロ：10円）
- 市民活動に関する相談
- 市民活動に関する情報公開
- 貸しロッカー（800円／月）

左京西部いきいき市民活動センター

京都市左京区田中玄京町149
TEL：075-791-1836/FAX：075-712-0138
MAIL：info@sw-ikiiki.com
開館時間：10時～21時（日曜は17時まで）
休館日：火曜日・年末年始（12/29～1/4）

ACCESS

[電車] 京阪「出町柳」駅より徒歩7分
[バス] (京都駅から) 京都バス17号「御影橋」下車より徒歩5分(四條河原町から) 京都バス21号・41号「御影橋」下車より徒歩5分/京都市営バス3号・201号「出町柳」下車より徒歩7分*専用の駐車場はございません。

